

一三七〇番

はなはだも 降らぬ雨故 にはたつみ いたくな
行きそ 人の知るべく

一三七一番

ひさかたの 雨には着ぬを 怪しくも 我が衣手
は 干る時なきか

一三七二番

み空行く 月読をとこ 夕去らず 目には見れど
も 寄るよしもなし

一三七三番

春日山 山高からし 石の上の 菅の根見むに
月待ち難し